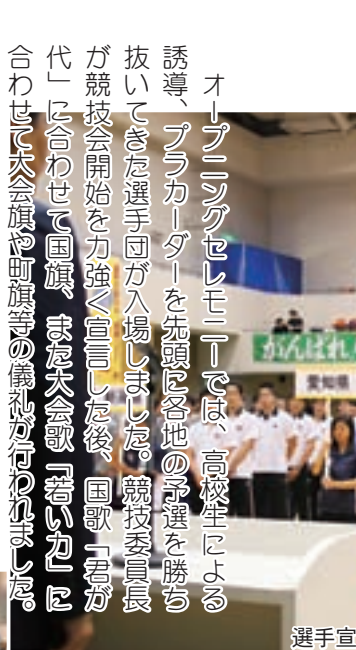


人々が出会い、絆を深める舞台に



歓迎のことばを述べる堀町長



選手宣誓を務める岐阜クラブの田中主将

オープニングセレモニーでは、高校生による誘導、フラカーターを先頭に各地の予選を勝ち抜いてきた選手団が入場しました。競技委員長が競技会開始を力強く宣言した後、国歌「君が代」に合わせて国旗、また大会歌「若い力」に合わせて大会旗や町旗等の儀礼が行われました。続いて、名誉会長である堀町長が選手団へ激励とおもてなしの言葉を述べました。



渾身の力で攻撃を展開する岐阜選抜（岐阜クラブ）

岐阜クラブは準決勝で新潟県、また3位決定戦では広島県と対戦し、両試合とも今競技会最高の入場者数となり、会場内は、その選手たちの気迫溢れるプレーに熱い視線が注がれました。準決勝戦では、両チームの気迫が会場内を包み込み、大歓声のなか試合が進みました。フルセット（第5セット）の末、惜しくも新潟県に敗れたものの、両県選手団には満場の拍手と喝采が送られました。

結果は第4位でしたが、国体バレーボール競技においては、全国のバレーボール選手の熱い姿、特に岐阜県選手の勇姿を観戦することができ、改めて、すばらしい大会であったと感じられました。

ぎふ清流国体は、爽やかな川の流れのように、人々が出会い、絆を深める舞台になることを願い、「輝け はばたけ だれもが主役」を合言葉に、大会に関わるすべての人々がキラキラと輝き、夢と感動を分かち合い、ともに未来をつくる大会として開催されました。本町では、10月5日（金）から8日（月・祝）までの4日間、町総合体育館他においてバレーボール競技（成年男子の部）が開催されました。



チーム一丸となり国体を盛り上げる岐阜選抜（岐阜クラブ）